

# StemFit®AK02N 培地 使用説明書

## 1. 注意事項（必ずお読みください）

本製品は「研究用試薬」です。医療用（臨床研究を含む）・臨床診断用・食品用として使用しないでください。また本製品はヒト血液から抽出した成分を含み、当該成分は核酸増幅試験にてヒトウイルス（HIV1、HIV2、HBV、HCV、HTLV-I&II、Parvovirus B19）は陰性であることを確認していますが、他の病原体の存在可能性が完全に否定されたものではありませんので、保護具の着用等、感染防止措置を講じてください。廃棄する場合にもオートクレーブ等の滅菌処理をお願いします。

## 2. 製品形態

本製品は3つのコンポーネントから構成されており、保管温度帯は「冷蔵」と「冷凍」に分かれています。

- ・A液 400 mL（冷蔵、2～8度）
- ・B液 100 mL（冷凍、-20度以下）
- ・C液 2 mL（冷凍、-20度以下）

1セットで約500 mL 調製できます。

## 3. 調製方法

① A液ボトル1本に対し、B液とC液を各1本ずつ融解します。

37度のウォーターバスでの急速溶解は、培地成分の劣化を早めますので行わないでください。B液は室温下で数時間、または冷蔵下で一晩かけて解凍してください。C液は液量が少なく直ぐに溶解可能ですので、調製時に融解を始めてください。融解後に稀に培地中成分が微量に析出することがありますが、析出物をフィルター除去頂いても培養性能には影響を及ぼしません。

② C液をB液ボトルに添加後、全量をA液ボトルに添加し、十分に混合します。

③（オプション）混合後の培地については適切な容器（例：50 mL チューブ）に分注し、-20度以下（-80度で保存の方が望ましいです）で凍結保存が可能です。必要な分だけ溶解しながら使用することができます。

全て無菌充填済みですので、無菌環境下（安全キャビネット内）で混合する場合、フィルター滅菌は不要です。調製後は冷蔵庫で保管（遮光）し、調製後2週間以内に使用することをお勧めします。冷蔵庫から取り出した培地は1時間程度室温に戻してから使用してください。また、長時間の室温下での保管は培地の劣化を早める可能性がありますので、使用後は速やかに冷蔵庫に戻すことをお勧めします。

## 4. 使用方法

製品添付文書の培養プロトコルをご参照ください。

## 5. 参考情報

ヒトiPS細胞201B7株を中心とした弊社検討結果の例を示します。

- ① オンフィーダー培養系からの切り替えも直接可能でした。
- ② 培地交換の頻度は細胞株や播種密度に依存します。弊社では、7日毎に継代しています。具体的には、毎水曜日に播種し、培地交換は木曜日（1日目）、金もしくは土曜日のいずれか（2日目もしくは3日目）、月曜日（5日目）、火曜日（6日目）に実施しています。

## 6. 製品情報お問い合わせ先

味の素株式会社 アミノサイエンス事業本部 アミノ酸部

〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号

製造者 味の素株式会社

E-mail: [stemfit@ajinomoto.com](mailto:stemfit@ajinomoto.com)

東京都中央区京橋一丁目15番1号

